



ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

群馬県建設技術センターの協賛のもと、群馬県都市計画協会と群馬県が共催し「ぐんま“まちづくり”ビジョンシンポジウム」が令和6年7月26日(金)、群馬会館にて開催されました。

今年度は「交通とまちづくり」をテーマに掲げ、和歌山大学経済学部 辻本勝久教授の基調講演が行われ、県内の取り組み紹介として群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課が事例発表を行いました。

基調講演『住み続けられるまちづくりのために～持続可能な交通をつくる責任、つかう責任～』

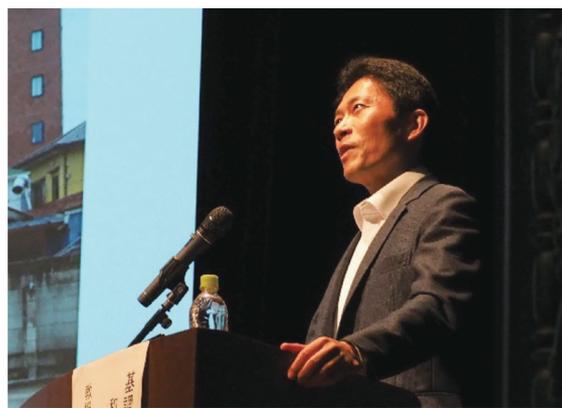
国内において人口減少と交通機関を担う人手不足が進行する中、日常生活や社会経済活動を支える地域公共交通をどのように維持するのが課題となっています。

今回はSDGs時代に沿った交通まちづくりに関する内容となっており、はじめに、持続可能な世界を実現するために2030年までに達成すべき目標やターゲットが掲げられたSDGs(持続可能な開発目標)について説明がありました。「誰ひとり取り残さない」をキーワードに様々な場面において、「環境」「社会」「経済」の3つの側面に配慮した行動が目標とされ、交通分野に関してもご多分に漏れず、目標達成に向けた取組が求められているとのことでした。

その後は群馬県と他の都道府県比較し、群馬県の公共交通の現状を分析した上で、「環境」「社会」「経済」それぞれの視点から考える群馬県の交通について、お話しいただきました。

最後のまとめとして、車に過度に依存したまちづくりは持続可能ではなく、住み続けられるまちづくりにはメリハリある土地利用や適度な車利用・環境への配慮が必要で、人と環境に優しく、まちに賑わいをもたらす交通体系をつくり、そしてつかうことが求められていると説明されていました。

今回の基調講演は持続可能なまちづくりのためにすべきこと、できることについて考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



辻本勝久教授

事例発表『こどもデマンド渋川の取組について』

群馬県では「GunMaaS」を活用し、地域の様々な社会課題の解決を目指し、県内市町村と連携した取組が行われています。今回は令和6年3月1日から3月31日まで行われた「こどもデマンド渋川」について、群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課・高橋主幹に発表いただきました。

こどもデマンド渋川は、保護者の送迎負担の軽減や送迎が可能になることによる教育機会の創出、部活動の地域移行に伴う移動の確保へのアプローチとして実施され、GunMaaSでチケット購入や配車予約ができることやAIによる効率的な配車、事前購入により車内での現金のやり取りがないこと、児童の乗降車時に保護者へ通知が行くなどの特徴があります。

1ヶ月間の社会実証を終え、利用状況や利用者の声をもとに分析すると、事業継続性の観点や運行エリア、運行時間などの課題が見えてきたそうです。

継続を望む声もある一方で経費や運行に関する課題があり、今後は住民、タクシー事業者、行政の三方にとってより良い効果的なサービスへ改善し、渋川市での早期の再開や、県内他地域への展開を見据えているとのことでした。

保護者や子ども、地域にとっても良いサービスへ磨かれ、社会実装に繋がるような取組になることを願っています。



事例発表の様子